

氏名	洲 脇 俊 充		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博 乙 第 2796 号		
学位授与の日付	平成 6 年 9 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	低新和性IgGレセプター (Fc γ R II) を介するヒト好塩基球の活性化機序に関する研究 —フローサイトメーターによるカルシウム動態の解析—		
論文審査委員	教授 中山 睿一	教授 太田 善介	教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

フローサイトメーターを用いてヒト好塩基球の細胞内Ca²⁺濃度を測定する方法を考案し、その上昇を指標に、好塩基球のFc γ R IIを解する活性化機序について検討した。好塩基球は末梢血から比重遠沈法にて部分精製し、混在する単核球を、phycoerythrin標識CD 2, CD14, CD16, CD19モノクローナル抗体で染色することにより非染色細胞として同定した。次に、細胞内Ca²⁺指示薬としてfluo-3を用い、Fc γ R II刺激による細胞内Ca²⁺濃度変化を経時的に測定した。その結果、Fc γ R IIのcross-linkingにより一過性の細胞内Ca²⁺濃度の上昇が認められたが、IL-3処理細胞との間に明らかな相違は認められず、またIL-3処理の有無に関わらず有意なヒスタミン遊離は認められなかった。

以上、ヒト好塩基球ではFc γ R IIのcross-linkingによりヒスタミン遊離は認められなかったが、セカンドメッセンジャーとしての細胞内Ca²⁺濃度の上昇が認められたことから、IgG系の刺激ではヒスタミン以外のメディエーターが関与していることが想定された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、ヒト好塩基球の活性化機序について研究したものである。セル・ソーターによって分取した好塩基球の活性化に基づく細胞内Ca²⁺濃度の上昇をサイトフルオロメトリーで検出する方法を確立し、Fc ϵ R IのみならずFc γ R IIを介しても好塩基球が活性化

されることを明らかにした。これは喘息病態におけるIgGの関与を考慮する上で重要な知見であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。